

# 小学校生活科

## 1 改訂の趣旨

- 気付きを基に考えたりすることなど、気付きを質的に高める観点から、活動や体験を充実
- 児童を取り巻く環境の変化を考慮し、安全教育に関する内容や自然の素晴らしさ、生命の尊厳を実感する指導の充実
- 身近な人と伝え合う活動を行い、進んで交流できるようにする内容を新設

## 2 改訂の要点

### (1) 目標

ア 教科目標（現行維持）

具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。

イ 学年の目標（2学年共通）は「自分自身に関する目標」を追加

### (2) 内容

ア 内容の改善とポイント解説（次ページ資料参照）

イ 気付きの明確化と気付きの質を高める学習活動の充実

気付きを基に考えるなど、気付きを質的に高める観点から、全ての内容において活動や体験を一層充実させるための学習活動の工夫が重要視されている。

ウ 幼児教育及び他教科との接続

幼児教育から小学校への円滑な接続を図る観点から、入学当初に生活科が中心的な役割を果たしながら合科的な指導の展開をすることが望まれている。また、生活科の学習成果を他教科の学習に関連させたり、他教科等の学習成果を生活科の学習に関連させたりすることが望まれている。

## 3 新学習指導要領全面実施に向けた授業づくり

### (1) 気付きの質を高める学習活動の充実

ア 活動を繰り返したり対象とのかかわりを深めた活動や体験を充実させることにより気付きを大切にし、その一つ一つの気付きを関連付けられる気付きへ質的に高めるために、「見付ける」などの多様な学習活動の工夫をする。

イ 「気付き」から「分かる」に質的に高めたり、「対象への気付き」から「自分自身への気付き」に質的に高めたりする意図的、計画的、組織的な授業づくりを工夫する。

### (2) 九つの内容から組み合わせ

九つの各内容には、階層性がある（図1）。第1階層は児童の生活圏としての環境に関する内容、第2階層は自らの生活を豊かにしていくために低学年時期に体験させておきたい活動に関する内容、第3階層は内容(1)から(8)のすべての内容との関連が生まれる階層となっている。生活科では、各内容の構成要素と階層性を意識して単元構成を行うことが必要である。例えば、(1)「学校と生活」や(8)「生活や出来事の交流」をそれぞれ(9)「自分の成長」と組み合わせる単元構成し、授業をつくるなどが考えられる。

（3）伝え合い交流する活動の充実  
 ア 内容(8)「生活や出来事の交流」を中心としつつも、他の全ての内容と関連を図りながら単元を構成することを大切にする。  
 イ 表現する力を育成するために、活動や体験を充実させ、伝えたいという強い思いや願いを心に抱くようにする。

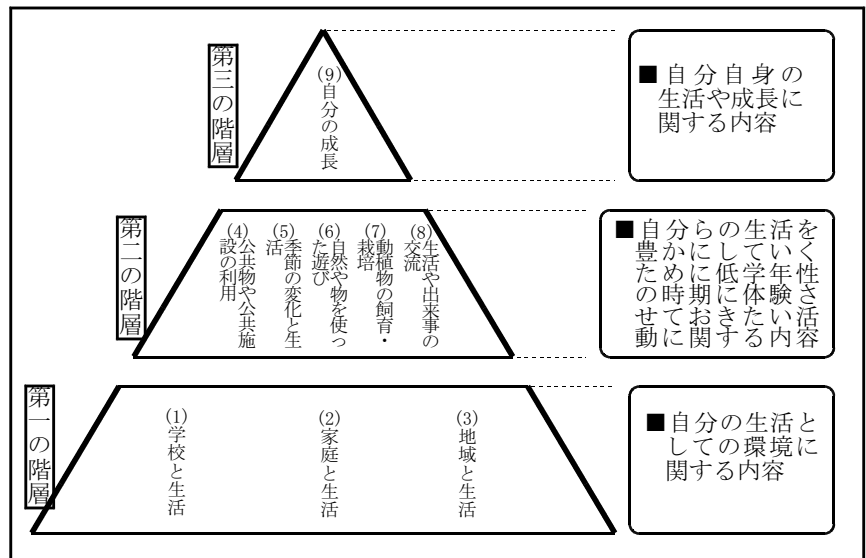


図1 生活科の内容の階層性

(4) 自然の不思議や面白さを実感する指導の充実〔内容(6)「自然や物を使った遊び」に関連して〕

- ア 自然とかかわって単に活動させるだけでなく、単元構成や学習環境を工夫し、教師の言葉かけや発問などにより科学的な見方・考え方の基礎を養うようにする。
- イ 生活科と理科のねらいの違いを明確にすることや「比べる」「繰り返す」「試す」などの活動を取り入れる(図2)。

(5) 生命に関する教育の充実〔内容(7)「動植物飼育・栽培」に関連して〕

- ア 季節を越えた継続的な飼育活動や開花から結実までの一連の栽培活動で成長を見守るなどの単元構成を工夫する。
- イ 育てる活動を充実させるために、保護者、地域住民、専門家などとの連携を図る。

(6) 幼児教育との接続

- ア 幼児教育との接続の観点から、幼児との交流活動や教員同士の交流を取り入れた授業づくりを工夫する。
- イ 入学当初の児童が滑らかに小学校生活になじめるようにするために、合科的な指導によるスタートカリキュラムを作成する。

「比べる」・・・ 違点や共通点に気付く  
 「繰り返す」・・・ 「どうしてかな」と問が生まれる  
 「試す」・・・ 「いつもこうなる」ときまりに気付く

図2 活動を表す言葉の説明

#### 4 移行措置

移行措置期間については、「各学年の指導については、全部又は一部について新学習指導要領によることができるようにした」と定められ、学習指導上の留意事項として「国語、音楽、図画工作などをはじめとした他教科などとの合科的・関連的指導を一層推進すること」が求められている。

#### 〔資料〕内容の改善とポイント解説

階層	内容の改善	ポイント解説
境に関する内容 児童の生活圏としての環境	(1) <b>学校と生活</b> 学校の施設の様子及び先生など学校生活を支えている人々や友達のことや分かり、楽しく安心して遊びや生活ができるようにするとともに、通学路の様子やその安全を守っている人々などに関心をもち、安全な登下校ができるようにする。	(1) <b>学校と生活</b> 児童を取り巻く環境が変化する中、学校の中の生活だけではなく、登下校も含めて、楽しく安心して安全な生活ができるようにする趣旨のもとに改訂され、安全を守ってくれる人々とのかわりを重視している。
	(2) <b>家庭と生活</b> 家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどについて考え、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活することができるようにする。	
	(3) <b>地域と生活</b> 自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。	
時期に体験させておきたい活動に低学年の内容	(4) <b>公共物や公共施設の利用</b> 公共物や公共施設を利用し、身の回りにはみんなで使うものがあることやそれを支えている人々がいることなどが分かり、それらを大切に、安全に気を付けて正しく利用することができるようにする。	(6) <b>自然や物を使った遊び</b> 中学年以降の理科の学習を視野に入れ、遊びや遊びに使う物を工夫して作ることで、児童が、遊びの面白さとともに、自然の不思議さにも気付くことができるようにすることを目指している。
	(5) <b>季節の変化と生活</b> 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることや気付か、自分たちの生活を工夫したり楽しんだりできるようにする。	
	(6) <b>自然や物を使った遊び</b> 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気付か、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。	
	(7) <b>動植物の飼育・栽培</b> 動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気付か、生き物への親しみをもち、大切にすることができるようにする。	
	(8) <b>生活や出来事の交流</b> 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかかわることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。	
成長に関する内容 自分自身の生活や	(9) <b>自分の成長</b> 自分自身の成長を振り返り、多くの人々の支えにより自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かり、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつとともに、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活することができるようにする。	(9) <b>自分の成長</b> 子どもが自分自身の成長を振り返る活動を重視することが強調されている。

※下線は現行学習指導要領の記述と比較し、新たに加わったことを示しています。